

「みえ排泄ケアネット」の現状と課題

高植 幸子¹，林 智世²，金原 弘幸³，芝田ゆかり⁴，吉田 和枝⁵

Key Words: 排泄，ケアネットワーク，みえ

はじめに

疾病や怪我などによって身体的障害に見舞われたとき、自分ひとりでトイレに行って用を足したいと強く思うことが、あらゆる身体的苦痛を乗り越えさせ、ひいては人を回復させる力を人間にもたらすということ、私たちはしばしばケアの現場で経験している。また、回復が見込めないときであっても、排泄ケアの提供者が当事者の身体的快適さのみならず、精神的快適さをも担っているという点では、排泄ケアは生きる意欲を高めるケアとして、同一の価値を持つ。当事者の健康度にかかわらず、元気になる排泄ケアが必要とされているのである。

1989年日本コンチネンス協会が排泄ケアの啓蒙活動を開始¹⁾し、その後、地域密着型の様々な排泄ケアに関する研究会²⁾や支援団体が立ち上がってきた。同時に国民の排泄ケアへの関心も高まってきており、ケア提供者に対する国民の期待は大きい。

しかしながら、ケアの当事者として、排泄ケアの受け手も提供する側も、よりよい排泄ケアを目指しているものの、現状の問題解決を図ることで、精魂尽き果てているというのが正直なところであると思われる。

そのような中で、三重県において排泄ケアの向上を目指そうとしている有志が集まり、みえ排泄ケアネット（以降、本会という）を立ち上げた。2003年6月から立ち上げを検討し、8月から学習会を開始した。本年9月から3年目を迎えるにあたり、立ち上げから今日までのこの2年間の経緯を振り返り、今後の方向性を検討したので、報告する。

1. みえ排泄ケアネット立ち上げの背景

近年、在宅や福祉施設での排泄に関する医療依存度

の高まりや、高齢者の排泄に係る諸問題が社会的な関心事となっており、新聞やニュースで取り上げられるようになってきた。と、同時に、企業が開催する研修会や病院主催の勉強会などが各地で開かれている。排泄の障害は、当事者やその介護者にとって、QOLの低下につながる重大な問題であるという認識のもと、保健・医療・福祉分野において、その予防、治療、機能の維持にそれぞれが日々努力しているが、社会のニーズを満たしているとは言い難いのが現状である。その原因として、①領域をこえた有機的な交流が不十分なこと、②排泄ケアの専門家が極めて少ないこと、③排泄ケアに携わる人々の教育機会や学習媒体が少ないこと、④排泄ケアに係る有用な介護用品等の開発ならびに普及が十分でないことなどが考えられる。そこで、三重県でも排泄ケアに携わる人々のネットワーク機関を設け、知識や技術の共有・開発を推進する趣旨で、有志が集まった。

2. 会の目的と事業

みえ排泄ケアネットは、会員に対して排泄ケアに関する事業を行い、もって三重県民の健康と福祉、QOL向上に寄与することを旨とする。具体的には次の5つを目的としている。

- 1) 排泄ケアの知識・技術の共有と普及、啓蒙、教育
- 2) 排泄ケアがなされる現場や社会の排泄ケアに関するニーズの明確化と対策の提供
- 3) 排泄（排尿・排便）ケアについての技術の開発と企業、行政への提言
- 4) 適切な排泄ケアのための情報提供システムの整備
- 5) 排泄ケアの専門家の養成と認定

本会は、これらの目的を達成するために4つの事業を行っている。

1 三重大学医学部看護学科

2 三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター

3 三重大学医学部腎泌尿器外科

4 社団法人 元気クラブいなべ 元気づくり課 介護予防係

5 三重大学医学部看護学科

- 1) 学習会
- 2) 会員相互による排泄ケア相談
- 3) 排泄ケアに関する調査・研究
- 4) 排泄ケアの専門家養成のための講習会

これらの事業は、他の研究会や講習会でも実施されており、地域色豊かに発展してきている。

3. 2年間の組織作りと学習会の経緯

2003年8月から2006年3月までの学習会のプログラムを表1～3に、2003年8月から2005年8月までの約2年間の参加人数を表4に、参加者の職種を表5に示す。

2003年度6月、呼びかけ人が相談し自分たちで講師を勤めることができるよう学習会のテーマを決め、8月より月1回、平日の夜2時間をかけて定期で学習会を始めた。不特定多数に参加を呼びかけても実施できるよう、実技は入れずおもに講義形式で行った。会費は徴収しなかったが、資料代として参加者にカンパをいただいた。開催場所は、三重大学医学部附属病院（以降、附属病院という）の職員の方々の参加を期待して、看護部の協力を得て病院4階にある看護部研修室を借用させていただいた。附属病院の看護師の方々の参加を促すことができたが、病棟のある階に不特定の外部者が夜間立ち寄るという警備上の問題が浮上した。8ヶ月間の参加者実数は82人、延べ数172人、看護師を中心に医療職、介護職、一般と幅広い参加が得られた。

2004年度は、会場を附属病院から看護学科棟に変更した。学習会は、会員の希望と学習会担当者の得意分野でテーマが構成され、幅広い講師にご協力をお願いでき、講義形式のままであったが充実した内容となった。参加費は資料代として学習会のつど300円徴収することにしたが、講師料を支払うまでには至らず、講師の方には無料奉仕していただくという、財政上の問題を残した。排泄ケアの専門家養成ができるよう学習会前半の30分をかけて会員間で養成プログラムの検討を行った。その結果、2005年度より、学習会に実技と事例検討を含めること、原則グループワークとすることなどの、抜本的な学習会構成上の変更を行うこととなった。また、出席者の開始時間がそろそろよう、会の開始時間を30分遅らせ、開催時間を18時30分から20時30分に変更することとなった。それに伴い、諸経費を見込んで、年間会費3,000円の年間会員制とし、当日参加者からは500円の参加費を徴収することとなった。12ヶ月間の参加者実数は82人、延べ数222人、参加職種は看護師が最も多かったが、介護職の伸びが大きく、排泄ケアの問題が介護の現場で特に

重要視されていることがうかがえた。介護保険3施設ならびに訪問看護ステーションの職員の方々にご協力いただいて実施した三重県内の排泄ケア実態調査³⁾からも、介護職の方々の排泄ケアの力量が利用者に大きく影響することがうかがわれ、本会の養成対象者の多くが介護職となることは十分予想された。

2005年度は、実態調査を基に構成された排泄ケア指導士の養成プログラムの一貫として、学習会を位置づけ、実施している。年間会員制としたため、会員数は4月当初数名であったが、7月末で15名、その後、くちコミで介護職を中心に増え始めているが、会場やスタッフ数、実技の実施という学習内容から考えると、学習会の受け入れ人数は4グループ20名程度が限界かと思われ、今後の組織作りと学習会のあり方の模索が続けられている。排泄ケア指導士の養成プログラムを表6に示す。5ヶ月間の参加者実数は26人、延べ数68人、参加職種は介護職が看護師を抜き、最も多くなっている。学習会は、無報酬でも熱意をもって講義をしてくださる講師陣と意欲溢れる参加者の相乗作用によって、毎回熱気に包まれているが、財政上の問題は不変であり、財政の安定を目指した組織作りが急務となっている。

4. 会員相互による排泄ケア相談、適切な排泄ケアのための情報提供システムの整備

会員ならびに参加者の方々から寄せられる相談は、今のところ学習会の中で、あるいは学習会終了後の講師への質問で多くがなされている。相談内容は、排泄機能のアセスメントに関すること、オムツからの排泄物の漏れへの対応、職種間の意思疎通の困難さ、介護職と看護職との間の業務分担や看護職と医師との間の主に指示に関する問題などグレーゾーンの業務に関すること、膀胱留置カテーテルの日常生活上の取り扱いについて、家族の排泄ケア相談など多彩である。業務の途中で携帯メールや電話によって相談を受けたり、勤務先の研修の講師の派遣依頼など、組織として本会を利用する事業所もでてきており、法人会員の組織作りや、日中の常設相談事業の必要性もでてきている。

5. 排泄ケアに関する調査・研究

排泄ケアがなされる現場や社会の排泄ケアに関するニーズを明確化し、その対策を考えるためには、調査・研究が欠かせない。

2003年8月、三重大学医学部附属病院における排泄ケアの調査⁴⁾を実施した。その結果、手術等により一時的にオムツを使用することがあっても、スキンケアなどにより、オムツによる弊害を起こすことなく、

オムツはずしまで行われていることがわかった。しかし、ターミナル期の場合には、1週間に2人程度、新たにオムツを使用した状態で退院していた。2004年1月、三重県下の介護保険3施設ならびに訪問看護ステーションで排泄ケアの実態調査³⁾を行った。オムツを使用している方が全体の6割で、そのうちの約4割が最初からオムツを使用している状態で受け入れられていた。また、全体の5%がそれぞれの施設でオムツはずしに成功しており、まだまだ、排泄の自立を促す余地のあることが示された。また、それぞれの施設の排泄ケアの基準やケアの向上のための手立てを調べた調査⁵⁾では、各施設やステーションでは、ほとんどがオムツの適応の基準がなく、それぞれの利用者の状況によって、ケア方法が選択されていることが判った。適切な排泄ケアを行っていても、広く社会にそのことを示すことのできる状況になっていないことが危惧された。今後は、オムツと尿路感染の関連について、排泄時の消臭についての研究が予定されている。

6. 排泄（排尿・排便）ケアについての技術の開発と企業、行政への提言

排泄ケアの良し悪しは、ケア提供者の技術能力に加え、ケア対象者にとって適切な排泄ケア物品が存在するかどうかにかかっている。ケア提供者の技術は、技術訓練や新しい技術の情報提供によって向上するが、多様なケア物品は、まだまだ開発途上にあり、目下、“利用方法の工夫”によって、なんとかケア対象者に合わせて使っているのが現状であろう。

今現在、本会から提案されているケア物品の開発は、オムツやパッドのさらなる開発（前から後ろへ圧迫しないで止めることのできる紙オムツや、筒状の男性用パッドなど）、安定性の高いポータブルトイレの開発などであるが、いずれも企画の段階に留まっている。しかしながら、学習会に排泄物品関連企業や行政職に参加してもらうことによって、例えば、入浴が安全にできる膀胱留置カテーテルの付属品等の開発や紙オムツの処分に関する企業側の責任とその処分法の開発、排泄ケア全体を通して見えてくる行政への希望などが、ケアを提供している側や一般市民から、直接その責任の一端を担っている人へ伝えられるという貴重な経験

をしている。様々な立場の人が交流することによって生み出されてくる共通意識が、今後の排泄ケアを動かしていく萌芽となる可能性を秘めていると思われる。

おわりに

みえ排泄ケアネットは、経済的な基盤も未だままならない状態であるが、賛同者の好意と善意によって、立ち上げから3年目を迎えることができた。そこで、この2年間の経緯を振り返り、今後の展開を検討した。

活動目的や事業内容の方向性に誤りはないと考えられるが、経済的な基盤を整えられる組織作りが目下のところ急務である。また、排泄ケア指導士の養成が始まったばかりで、その効果は今後の認定者の活躍の評価を待つ必要がある。

人々のQOL向上の希求に根ざした排泄ケアに対する問題意識の高まりや、全国各地で繰り広げられている排泄に関する検討会の存在、排泄ケアを担う人々を支援する方向で広範な排泄関連企業が、企業活動を展開していることなどは、排泄ケアの未来を明るいものにしている。今後は、このような各種の団体が、なんらかのネットワークでつながっていくことが、より必要になってくることであろう。

今後とも、本会に対するご理解とご協力、またご指導を切にお願いしたい。

文 献

- 1) 西村かおる：生活を支える排泄ケア，医学書院，2002
- 2) 後藤百万，大島伸一，他：平成11年度愛知県高齢者排尿障害実態調査報告書，愛知県，2000
- 3) 金原弘幸，有馬公伸，他：日本泌尿器科紀要，51（6），2005
- 4) 村川由加里，林智世，他：三重大学医学部附属病院における退院時，排泄管理実態調査，平成15年度看護研究発表会集録，三重大学医学部附属病院看護部，2004
- 5) 高植幸子：三重県下の高齢者施設と訪問看護ステーションにおける，排泄ケアの組織的な取り組み，三重看護学誌第7巻，2005

表 1. 2003 年度 みえ排泄ケアネット学習会プログラム

日にち	テーマ	講師（敬称略）	講師紹介
8 月 28 日（木） 18：00～20：00	排尿って何？ 排尿に関する解剖や生理について	金原 弘幸	三重大学 泌尿器科 医師
	大学病院実態調査実施にあたり（調査打ち合わせ）	蓑田さゆり 橋爪 由利	三重大学 看護学科 看護師 三重大学 看護学科 看護師
9 月 25 日 18：00～20：00	失禁とスキンケア スキンケア用品紹介	林 智世	三重大学 WOC 認定看護師
	大学病院実態調査報告	芝田ゆかり 蓑田さゆり 橋爪 由利	三重大学 保健師（ケアマネージャー） 三重大学 看護学科 看護師 三重大学 看護学科 看護師
10 月 23 日 18：00～20：00	排便のしくみとその障害 消化器外科の排便ケア	吉山 繁幸 村川由加理	三重大学 消化器外科 医師 消化器外科 看護師
	三重県排泄ケア実態調査にあたって（調査打ち合わせ）	高植 幸子	三重大学 看護師
11 月 27 日 18：00～20：00	尿道留置カテーテル管理 在宅と病院での管理 カテーテルの種類やしぐみ	磯部 政美 島崎 元宏	元 鈴鹿中央病院 訪問看護ステーション 看護師 株）メディコン
	三重県排泄ケア実態調査	全 員	
12 月 25 日 18：00～20：00 忘年会	排泄を支える住環境 トイレの環境	長岡 良司	三重県トイレ協会 副理事長
	三重県排泄ケア実態調査	全 員	
1 月 22 日 18：00～20：00	痴呆と排泄ケア オムツの種類と賢い使い方	佐藤 敏子	三重大学 保健師
2 月 26 日 18：00～20：00	排泄動作の理学療法と作業療法	直江 祐樹	三重大学 理学療法士
	みえ排泄ケア指導士（仮称） 養成プログラム検討会	全 員	
3 月 18 日 18：00～20：00	排泄ケアの受け手と提供者の経済的問題	原田 理恵 中西係長	三重大学医療ソーシャルワーカー 三重大学附属病院医事課
	三重県、関係諸団体への提言作成	全 員	

表 2. 2004 年度 みえ排泄ケアネット学習会プログラム

日にち	テーマ	講師（敬称略） 所 属	場所
4 月 22 日（木）	排尿って何？ 排尿に関する解剖や生理について	金原 弘幸 三重大学泌尿器外科 医師	看護学科棟 3 階 第 1 講義室
5 月 27 日（木）	排便のしくみとその障害	吉山 繁幸 三重大学医学部附属病院 医師	看護学科棟 3 階 第 1 講義室
6 月 24 日（木）	在宅におけるカテーテル管理（尿道留置 カテーテル・自己導尿など）	磯部 政美 津地区医師会訪問看護ス テーション 看護師 他	看護学科棟 3 階 第 1 講義室
7 月 22 日（木）	排泄動作のリハビリテーション	直江 祐樹 三重大学医学部附属病院 理学療法士	看護学科棟 3 階 第 1 講義室
8 月 28 日（土）	「排泄ケア関連物品大展示会 あなたも自作を出典しよう！」 「研究報告会」等	排泄ケア物品関連業者の 方々	看護学科棟 1 階 地域老年看護実習 室
9 月 30 日（木）	排泄を支える住環境 －トイレの環境－	長岡 良司 三重県トイレ協会 副理事長	看護学科棟 3 階 第 1 講義室
10 月 28 日（木）	「スムーズな排泄を促す運動法」	芝田ゆかり 三重大学 保健師 健康運動実践指導者	看護学科棟 4 階 ウエルネスセンター
11 月 25 日（木）	失禁とスキンケア スキンケア用品紹介	林 智世 三重大学医学部附属病院 WOC 認定看護師	看護学科棟 3 階 第 1 講義室
12 月 16 日（木）	「障害児の排泄について」 18:00～19:00	三輪 素子 「あじさいの家」	看護学科棟 1 階 地域老年看護 実習室
1 月 27 日（木）	「障害を持つ人々の排泄ケアについて」 （心理と社会面について）	阪倉 恵 佛教大学大学院生 社会福祉士	看護学科棟 3 階 第 1 講義室
2 月 24 日（木）	「在宅高齢者の排泄ケアについて」	中道 和久 津医療生協 ケアマネージャー	看護学科棟 3 階 第 1 講義室
3 月 17 日（木）	排泄ケアの受け手と提供者の経済的問題	原田 理恵 三重大学医学部附属病院 社会福祉士	看護学科棟 3 階 第 1 講義室

表 3. 2005 年度 排泄ケア指導士講習プログラム

回	月日	講習会（金 18：30～20：30）	講師（敬称略）
1	4／15（金）	私たちの目指す排泄ケア 排泄ケア宣言の作成 症例検討会（1）	三重大学医学部看護学科 看護師 高植 幸子
2	5／20（金）	排尿のメカニズム 排尿の観察方法と障害時の受診の判断 症例検討会（2）	三重大学医学部泌尿器科 医師 金原 弘幸 津医療生協 暮らし助け合い事業担当 中道 和久
3	6／17（金）	排泄物品の選択方法とケアⅠ ①膀胱留置カテーテル ②自己導尿 症例検討会（3）	三重大学医学部附属病院 泌尿器科 副看護師長 高口有香子
4	7／15（金）	排泄リハビリテーションⅠ ①排泄動作障害者のリハビリテーション 症例検討会（4）	三重大学医学部附属病院 リハビリテーション部 理学療法士 直江 祐樹
5	8／19（金）	排便のメカニズム ①排便の観察方法と障害時の受診の判断 ②快便をもたらす日常生活	三重大学医学部附属病院消化管外科 医師 荒木 俊光
6	9／16（金）	排泄物品の選択方法とケアⅡ ①スキンケア用品 症例検討会（5）	三重大学医学部附属病院 WOC 認定看護師 林 智世
7	10／20（木）	排泄物品の選択方法とケアⅢ ①床上便器と尿器，ポータブルトイレ ②オムツとパッド 症例検討会（6）	三重大学医学部看護学科 高植 幸子 大阪府社会福祉協議会 阪倉 恵
8	11／ 5（土） 10：00～ 14：30	排泄リハビリテーションⅡ ①鍼灸・ツボ・マサージ ②運動療法	鈴鹿医療科学大学鍼灸学部 助手 沢崎 健太 社団法人 元気クラブいなべ 元気づくり課介護予防係 芝田ゆかり
9	12／ 8（木）	排泄リハビリテーションⅢ 症例検討会（7） ：排泄ケアに困った人達の座談会	シルバーデイサービス 憩いの汀 代表 西口 和代 三重大学医学部看護学科地域看護学講座 助手 宮路亜希子
10	1／13（金）	排泄物品の選択方法とケアⅣ ①トイレと移動に用いる物品 ②トイレの改修のポイント 症例検討会（8）	愛知排泄ケア研究会 1級建築士 土屋 雅彦
11	2／17（金）	排泄リハビリテーションⅣ ①骨盤底筋体操 ②残尿量を知る方法 症例検討会（9）	三重大学医学部看護学科 看護師 高植 幸子 シスメックス株式会社 森崎 隆志
12	3／17（金）	排泄ケアに関する福祉 症例検討会（10）	三重大学医学部附属病院 MSW 原田 理恵 NPO 法人 津なぎさの家 瀬古 邦雄

表 4. 学習会の月別参加人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2003 年度	※	※	※	※	9	18	21	28	25	32	20	19	172
2004 年度	28	26	24	20	15	14	18	15	15	18	16	13	222
2005 年度	12	14	12	14	16	※	※	※	※	※	※	※	68

※は、未実施

表 5. 学習会参加者の職種

	月数	介護職	看護師	保健師	保育士	ケアマネジャー	MSW	PT	医師	薬剤師	医療事務	関連業者	関連団体	施設経営者	一般	学生	総計
2003 年度	8 月～3 月	7	29	3		4	2	1	4	2	1	3	2	3	5	16	82
2004 年度	4 月～3 月	19	23	1	3	4	2	3	4		1	1	2	2	9	8	82
2005 年度	4 月～8 月	11	5			1		1	2	1	1		1		2	1	26

表 6. 2005 年度みえ排泄ケア指導士養成プログラム

みえ排泄ケアネットでは、本年度より、排泄ケア指導士の養成を行います。

みえ排泄ケア指導士養成プログラムは、人間の排泄に関する心身の機能やしぐみについて学び、具体的な排泄ケアの方法を身に付けることを目的としています。排泄ケア指導士は、排泄の問題に悩む当事者や介護者を支援するため、「排泄ケア宣言」の作成と普及に携わり、排泄ケアの向上を願う人々とケアネットワークをつくります。

申込方法：別紙受講申込書に必要事項を記入のうえ、返信用封筒（返信用切手貼付、宛名明記）を同封し、下記の申込先まで郵送あるいは持参してください。

講習費用：講習費用は、入会金を兼ね 3,000 円／年です。申込時に下記の口座に振込んでください。

百五銀行 栗真出張所 普通預金

口座番号 263885 みえ排泄ケアネット

かならず、振込み人のお名前をお書きください。

※申込書と一緒に持参される場合は、必ず領収書を受け取ってください。

申込み締切：特にありません。会員証の発行は、月末に行いますので、翌月の講習会参加時にお渡しします。

講習場所：三重大学医学部看護学科棟

お申込・お問合せ先（事務局）

〒514-8507

三重県津市江戸橋 2 丁目 174 番地

三重大学医学部看護学科

看護師 高植幸子 Tel・Fax 059-231-5272

三重大学医学部附属病院 医療福祉支援センター

WOC 認定看護師 林 智世 代表 Tel 059-232-1111

三重大学医学部泌尿器科

医師 金原弘幸 代表 Tel 059-232-1111

講習会について

講習会は、原則、グループワークと実技演習です。症例検討会は、担当者によって提供された症例に対して、具体的なケア方法を参加者全員で検討します。

排泄ケア指導士の認定方法

① 10 回以上の講習会の参加、② 3 回以上の症例検討会の参加、③ 排泄ケアの実践レポートの提出と講師による試問を合格すること、の 3 つの要件を満たす場合に、認定します。